

Report on the Villages in North China (7): The Shanxi Province Villages in August 2012

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/34355

華北農村訪問調査報告(7)

—— 2012年8月, 山西省の農村 ——

弁 納 才 一

はじめに

2012年8月16日～30日の2週間, 山西大学中国社会史研究センターとの共同研究である山西省農村における聞き取り調査と北京・太原における資料収集のために, 成田・北京を経由して中国山西省を訪問した。このうち, 前半の8月18日～23日は山西省P県D村で聞き取り調査を行い, その途中の21日は靈石県溝峪灘村と四社五村を訪問した¹⁾。また, 後半の24日～30日は山西省中国社会史研究中心及び北京の中国社会科学院経済研究所において資料調査を行った。

今回の山西省農村調査に全日程参加したのは, 内山雅生・田中比呂志・祁建民・古泉達矢・弁納才一と初参加の山本真・福士由紀・佐藤淳平・前野清太郎の計9人で, 部分参加ないし資料収集のみを行ったのが, 林幸司・首藤明和・岩谷将・金野純・河野正の5人である。一方, 山西大学側の農村調査参加者は, 行龍・郝平・常利平・馬維強・李嘎・毛来靈・孫登洲・張永平の8人である。

そこで, 本稿では, 山西省P県D村と靈石県溝峪灘村において筆者の弁納が通訳も担当していただいた毛来靈氏とともに聞き取りを行った内容及び山西省内の四社五村と同省西北部の農村地域(興県)への訪問について概況を記録しておきたい。

なお, 本稿でも, 前稿までと同様に, 主に煩雑さを避けるために, 原則として常用漢字と算用数字を用いることにし, また, プライバシー保護の観点から山西省P県D村における地名・実名などを伏せることにした。

I P県D村

同村は、我々が訪問した前日に大雨が降り、訪問初日の午前中も雨が降っていたため、同日の午後、訪問した際には村内のところどころに大きな水たまりができていたが、前回(昨年8月)よりも道路の状態はましだった。同村の村長の話しによれば、政府からの補助金も合わせて多額の費用を投じて同村の中心部の道を補修したようである。また、より目立った変化は、村の入り口に車止めが作っており、ダンプカーのような大型車が村外から侵入できないようになっていた。そこは、我々が乗ってきたマイクロバスが辛うじて通ることができる狭さだった。さらに、村民委員会の看板が掛けてある建物の前の広場には健康増進のための遊具が設置されていた(去年までは数頭の牛が草を食べていた)。ただし、使用している人をあまり見かけなかった(多くの老人は麻雀に興じていた)。

(1) WRT(85歳, 辰年生まれ)

聞き取り日時：8月18日(土) 15:10~17:20, 21日(火) 15:45~17:15,
22日(水) 9:10~10:45, 15:00~17:45

聞き取り場所：WRT宅

聞き手：弁納才一・毛来霊・林幸司(18日のみ)・古泉達矢(21日・22日)

通訳：毛来霊

家族

- ・父のWZJには3人の兄と4人の姉妹がいた。すなわち、父は一番下の弟で4男だった。3人の兄のうち、一番上の兄(WZX)を除く、2人の兄(WZG・WZP)は男の子がいない親戚の家に養子に出された。
- ・母のLGYは本村から東南に15里離れたY村の出身である。
- ・10畝の土地に高粱や玉蜀黍などを栽培していたが、食糧を自給することはできなかった。また、もともとは親戚の家(小学校の同級生のHHの家)の隣を間借りして住んでいた(家賃は月額10元)、家畜も飼育してい

- なかった。後に買い取って5人の子供に部屋を分けた。
- ・妻はLLG(75歳, 寅年生まれ, 本村人)で, 裁縫はできるが, 紡織はできない。なお, LLGの実家と個人史については後述する。
 - ・私は5歳年上の兄(WHT)との2人兄弟で, 兄は21歳(1945年)の時から西安の永利銀行に勤務していたが, 給料が安かったので, 医学の勉強を始めていた。兄は, 28歳で病死した。その妻は河南省出身で, その妻の父親は医者だった。
 - ・私には5人の息子と3人の娘の8人の子供がいる。長男(WHL, 52歳, 子年生まれ)の妻(QBY, 50歳, 卯年生まれ)はL村の出身で, 次男(WHM, 50歳, 卯年生まれ)の妻(LXZ, 46歳, 生まれ)はL県の出身で, 3男(WHG, 48歳, 巳年生まれ)の妻(HYM, 47歳, 午年生まれ)はW荘の出身で, 4男(WHL, 45歳, 申年生まれ)の妻(QYL, 43歳, 戌年生まれ)はQ家山の出身で, 5男(WHZ, 42歳, 亥年生まれ)の妻(WHY, 39歳, 寅年生まれ)はH村の出身だった。一方, 長女(WHZ, 54歳, 亥年生まれ)は本村のWJL(56歳)に嫁し, 次女(WHM, 43歳, 戌年生まれ)はN村のRZQ(43歳, 戌年生まれ)に嫁し, 三女(WHX, 卯年生まれ)はL家橋のLHY(38歳, 寅年生まれ)に嫁した。
 - ・長男(WHL)には3人の息子がおり, その長男(WZB)は結婚して村民委員会(かつては廟だった)の隣にある商店(D村便民連鎖店)を所有しているが, 数年前にオート三輪を買って運送業をやっており, 忙しいので, 親である長男(WHL)夫婦が店に寝泊まりして(商店の奥に寝室がある)農業をしながら店番をしており, 逆に, 息子の長男(WZB)夫婦は親である長男(WHL)の部屋に住んでいる。だが, 長男(WZB)は, 最近, 運送業の仕事があまりないので, 商店の経営に戻る予定で, もうすぐ商店に家族で寝泊まりすることになるという(まもなく引越するという)。また, 次男(WWB)は結婚してD村の鉄廠に通勤している(バイクで約20分を要す)。なお, 長男と次男には子供が1人ずついる。さらに, 3男(WDB)は会社のトラックで建築用の土を運ぶ仕事をしており, まだ結婚していない。
 - ・N村の鉄廠で働いている次男(WHM)には息子(WWB)が1人おり, P県城

で自動車の内装・外装の仕事をしている。よって、次男の妻(LXZ)が農作業をしている。WRT氏と同じ敷地内に住んでいる次男(WHM)は、まだ結婚していない1人息子(WWB)のために新たに家を建てる予定だという。

- ・ 3男(WHG)は父親(WRT)の仕事を引き継いで太原鉄路局(太原北駅貨運部)に勤務し、結婚後も単身赴任しており、一方、大卒の妻(HYM)は実家のあるW家庄で学校の教師をやっている。なお、3男夫婦には息子(WXB)が1人おり、太原の大学の学生である。
- ・ 4男(WHL)は太原で「木匠」(主に家具を作っている)をやっているが、妻(QYL)は本村でアルバイトをしている。なお、4男夫婦には息子が1人と娘が2人いる(長女はこの9月から大学に入学することになった)。
- ・ 5男(WHZ)は、かつてWRT一家が住んでいたところに住んでおり、初めは鶏を飼育していたが、鳥インフルエンザの流行で打撃を受けたので(借金まで抱えてしまった)、その後は毛皮をとるためにキツネなどを飼育しており、借金も全て返済した(数年前の聞き取り調査の際に、山西大学側の参加者ととも我々の多くが参観している²¹⁾)。なお、5男夫婦には1人の息子(小学生)と2人の娘(自転車ですら約20分を要するW家庄の中学校に通学している)がいる。
- ・ 長女(WHZ)には2人の娘がおり、2人ともすでに結婚している。
- ・ 次女(WHM)にも2人の娘がおり、長女は中学を卒業してP県城内の商店で店員をしており、次女は小学3年生である。
- ・ 3女(WHX)には2人の息子がおり、長男はW家庄の中学校に通い、次男はD村の小学校に通っている。夫の実家があるL村には学校が無く、しかも、夫がN村の鉄廠に勤めているので、家族みんなでD村に家を借りて住んでいる。土曜日と日曜日はL村の家に帰っている。

LLGの実家

- ・ 父親はLRRで、母親はWGY(本村から南に20里離れたL村の出身)で、糸を紡ぐことはできたが、機織りはできなかったため、本村人に手間賃を支払って布を織ってもらい、布団カバーや服などを自分で作っていた。

2人姉妹の姉(LLF)はD村(本村から西に10里離れた村)に嫁した。

- ・実家は、姉妹が2人とも嫁ぎ、後継ぎが無く、父親が亡くなると、母親は他村に再び嫁ぎ、家などは親戚に譲渡した。その代わりに、父親の墓参りなどを頼んだ(女性は墓参りができないから)。
- ・実家のL家は、現在の村長のL家とは全く親戚関係がない。村長のL家が廟東(「圪塔上」)のLなのに対して、実家のL家は頭道街のLである。

LLGの個人史

- ・小学校で4年間学び、20歳の時、榆次に嫁いだ。最初の夫(P県城内の出身)は榆次の経緯紡績機械工場に勤めていたので、自分も同じ榆次にあった晋華紡績第2工場の試験に合格して紡績女工として働いていた。その後、子供を産んだので、その紡績工場を辞めたが、その夫が同僚の女性(経緯紡績機械工場に勤務していたP県城内の出身)と愛人関係になったので、離婚した。こうして、3人の子供を連れて実家の本村に戻ってきた。
- ・本村の友人(?)に今の夫(WRT)を紹介されて結婚した。

WRTの個人史

- ・13歳(1940年?)、小学校に入学し、3年間だけ、小学・論語・三字経・百家姓・千字文・国文・算数などを学んだ。昼食は、自宅に戻って窩窩頭(玉蜀黍)などを食べた。しかし、当時は、食糧が不足していたので、野草を食べたこともあった。日本兵を間近で見たこともあったが、怖かったので、普段は遠くから見ていた。
- ・小学校の時の同級生で、現在も健在なのはWJZ・HH・WCY・WSQ³⁾の4人で、縄跳びや「打瓦」という遊びをやった。今でもよく会って話をしている。
- ・1945年(16歳)から5年間、親戚(父方のいとこのWZP)の紹介によってP県城の雑貨商店(「洪泰盛」)で学徒として朝8時から夕方8時まで(昼休み2時間)働いた。このため、自分の農地の耕作は互いの農地が近いところにあった親戚(父方のいとこの王怡堂)に任せた。収穫の半分をもらったというから、事実上、小作に出したことになる。

- ・日中戦争が終わると、閻錫山軍がやってきて若者を無理やり兵隊にしていたので、解放直前、閻錫山の軍に捕まって兵隊にさせられないように、本村に戻ってきたが、閻錫山軍に無理やり入隊させられて太原につれて行かれ、解放軍の捕虜となった。解放軍に入隊することを希望しなかったため、再び本村に戻ってきた。本村はすでに解放されていた。1949年頃は、建築などの様々な仕事をして農作業はやっていなかった。
- ・土地改革では、「貧農」に区分され、父母・兄夫婦を含む5人家族分の土地(1人1.8畝、計9畝)を分配された。
- ・1年だけ互助組に参加し、翌年からは初級合作社・高級合作社に参加していき、生産小隊では「計工員」(労働点数を付ける係)を務めた。
- ・1958年10月、太原铁路局で勤務し、初任給は55.5元で、さらに8元の手当がついた。忻州駅(5～6年間、線路のポイント切り替え作業)・南塔底駅(8年間、同前)・寧武駅(3年間、貨物の積み下ろし作業)・朔県駅(2年間、同前)・忻県駅(2～3年、同前)・南塔底駅(3年間、線路のポイント切り替え作業)での勤務を経て、最後は太原の「車務段」で雑務をこなした。当初は2交代制(1日24時間出勤すると1日の休暇が与えられる)だったが、最後は3交代制(1日24時間出勤すると2日間の休暇が与えられる)になった。現在、3男は4交代制(1日24時間出勤すると3日間の休暇が与えられる)で勤務している。
- ・1960年が最も困難だった。1か月、28斤の食糧(小麦粉5斤、粟2斤、玉蜀黍21斤)を配給された。
- ・1965年、妻の友人(本村人)の紹介で結婚した。当時は忻州で勤務していたが、結婚後も単身赴任を続け、例えば、3交代制の時は、毎週土曜日の午後に本村に帰り、月曜日の早朝に勤務先に戻った。忻州から本村まで鉄道で約4時間を要したが(太原からは約2時間を要す)、铁路局に勤務していたので、運賃は不要だった。
- ・現在住んでいる家は1970年代に建てた。現在、3男を除く、3組の息子夫婦が住んでいるが、長男夫婦の部屋には実際にはその息子の長男夫婦が住んでいる。
- ・1986年に定年退職し、太原铁路局の仕事は「接班」の制度に従って3男に

引き継いだ。というのは、長男・次男・長女の3人は、妻の前夫との間に生まれた連れ子だったので、3男が今の夫婦2人の間に生まれた最初の子供だったからである。

- ・現在、年金は月1,450円(つい最近2,000円くらいになった)もらっている。年金は、3男が帰省した時に、太原鉄路局から預かって直接持ってくる。

雑貨商店の学徒(解放前)

- ・16歳から始めたP県城の雑貨商店(「洪泰盛」)における学徒としての仕事の内容は、主に店内で商品を販売する店番で、食事と住居を提供された以外に、1か月5円の給料をもらった。最初の2年間くらいは、まだ戦時中(日本軍占領下)だったので、給料は日本円(「金票」=中国聯合準備銀行が発行した金元券)で支払われていた。そして、日中戦争後は閻錫山軍がやってくると、中央銀行券(当初の蒋介石像が印刷してある法幣からしばらくして孫文像が印刷してある黄金券へ交代していった)が流通するようになり、月給は法幣の時は10元に引き上げられたが、黄金券になると再び5元に引き下げられた。法幣の信用性はかなり低かった。また、給料の他に、帽子をもらったこともあった。
- ・店の商品は、専門の担当者がP県城の卸問屋から仕入れていた。その店で売っていたのは、タバコ・酒・油・塩・酢・味噌・醤油・調味料・米・粟・飴などだった。
- ・洪泰盛の「東家」(出資者)はP県城東関の人で、商店の中には大掌櫃(N村の出身)・二掌櫃(S村の出身)・三掌櫃の3人の「掌櫃」,「帳房先生」(会計)1人(P県人),「伙計」1人,2人の学徒(3年間つとめると伙計に昇進する)がいた。3人の「掌櫃」とその他4人がそれぞれ1室に同居していた。
- ・国共内戦で、経済も混乱して商売もあまりよくななくなっていた上に、閻錫山軍が徴兵を課し、洪泰盛に対しても兵士を出すように迫ってきたが、社長が兵役を免除してもらうために数千円を支払ったので、商店は倒産してしまった。

以上、WRTは土地改革時期に「貧農」と規定されて土地を分配された兄弟2人がともに農業集団化時期には脱農化していった事例であると言える。

(2) WJZ・YXL

聞き取り日時：2012年8月19日(日) 9:00~10:50, 14:50~17:15

聞き取り場所：WJZ宅

聞き手：弁納才一・毛来霊・古泉達矢

通訳：毛来霊

家族

- ・父のWDHは一人っ子で、「紙匠」(技術は宋家庄で学んだ)をやっていた。父は農業をやらず、6畝の土地を本家のおじ(WDW)に耕作してもらっていた。
- ・母の名前は覚えていないが、姓は母で、幼名は改花だった。母はP県城の出身で、3人姉妹の一番下だった。紡織や手芸などはできなかった。
- ・兄弟姉妹は2つ歳下の妹が1人いるだけで、X村に嫁した。妹はすでに亡くなっている。
- ・10歳頃、母が亡くなり、その1年後には父も亡くなった。私はおじのWDWの家に引き取られ、妹は親戚のおばの家に引き取られた。6畝の土地はそれぞれが引き取られた家に分割された。
- ・長女(WYX, 56歳, 申年生まれ)はN村の王秀章(58歳, 午年生まれ)に嫁し、次女(WYY, 54歳, 戌年生まれ)は本村人のWPS(57歳, 未年生まれ)に嫁し、三女(WYM, 46歳, 午年生まれ)はX村のSB(48歳, 辰年生まれ)に嫁し、四女(WYQ, 41歳, 子年生まれ)はW家庄のLSP(43歳, 戌年生まれ)に嫁した。
- ・長男(WD, 51歳, 寅年)は、1979年にW家庄の高校を卒業し、驢馬車牽きをやった(この頃から生活が少し楽になった)。その後、「小四輪」で豆餅(大豆油を搾った残るかすで、肥料や飼料になる)を運ぶ仕事をした後、太原で建築業に従事した。そして、6年前に本村に帰ってきて、村の幹部(治保員)となった。妻のWCX(51歳, 寅年生まれ)はW家庄の出身であ

る。一男二女をもうけ、長女はP県城に嫁し、次女はL県に嫁した(聞き取りを行った当日、長女と次女はそれぞれ幼児をつれて実家に自家用車で里帰りしていた)。

WJZの個人史

- ・ 9歳(13歳?)、小学校に入学した(3年間学んだ)。引き取ってくれたおじが学費を出してくれなかったので、小学校をやめて働くことになった(小学3年生の時に父親が亡くなったと考えられる)。おじの家には驢馬が1頭おり、その飼料となる草を刈ったり、その驢馬を牽いて荷物を運ぶのを手伝ったりした。
- ・ 12~13歳頃(16歳?)、P県城の作業場で靴下作りを1~2年間やった後に、1945年(18~19歳頃)から太原で自転車修理の仕事をした。2年後(1947年?)、閻錫山の軍隊がやってきて兵隊となったが、解放軍の捕虜となってからは人民解放軍第15縦隊の歩兵となり、1948年、太原解放時に負傷し(背中に負った傷跡を見せてくれた)、1年余り、北京の中央人民医院に入院した。
- ・ 1949年秋に本村(おじのWDWの家)に戻ってきた。土地改革では、軍隊に入隊していたので、土地は分配されず、もともと3畝しか所有していなかったことから、階級は「下層中農」と規定された(おじの家は「中農」とされた)。
- ・ 1949年以降、3畝の土地に玉蜀黍・高粱を栽培した。互助組には参加しなかった(「単干戸」だった)。ただし、負傷していたので、力仕事(農作業)はあまりできなかった。また、無報酬の小学校「文教員」となり、1年間務めた。
- ・ 1955年、28歳で結婚した。妻(YXL、子年生まれ)はQ村(本村から20里離れている村)の出身で、20歳だった。
- ・ 文革前から負傷軍人の保障金をもらうようになった(「残疾人員撫恤金額領取証」と「中華人民共和国残疾軍人証」を見せてくれた)。
- ・ 人民公社では、第6生産小隊副隊長(31~32歳の2年間)を務めた後、生産大隊で「安全保衛」(「保衛」とは「看青」のことか?)を務めたが、あまり

長続きせず(少し口ごもってあまり語りたくない様子だったので、あえて詳細は聞かないことにした)、その後、「広播員」(拡声器で村民に伝達する仕事)を3年間やった。

- ・10年前、今の敷地をおじ(おじのWDWはすでに死去していた)の家から買って新築した。おじの一家は同村の村はずれ(現在ではすでに村の中心部になっており、同村が拡大し続けていることがわかる)に新居を構えているという。
- ・現在、政府から年8,000元の保障金(解放軍入隊時に負傷したことに対して)をもらっている。当初(文革前?)は30元だった。

靴下作り

- ・16歳頃からP県城にあった手工製靴下を作る作業場で学徒として働いた。掃除や原料綿糸・靴下のアイロンがけなどの仕事をした。「四姑父」(おじのWDWの妹の夫)の紹介だった。社長は厳正業で、P県城の人だった。
- ・学徒として働いていたので、給料はもらえなかったが、住み込みで、食事も支給された(社長が料理を作ってくれた)。作業場では2人の大師傅、1人の二把刀、4人の学徒の計7人が働いていた。大師傅は技術水準の高い人で、給料をもらっていた。二把刀は大師傅より技術水準が低いが、やはり給料(大師傅より低い)をもらっていた。自分を含めた学徒はみな同じくらいの年齢で、給料はもらえなかった。学徒のうち1人が汾陽の出身だったが、その他の3人はP県の出身だった。以上の7人はみな同じ部屋に住んでいた(住居と食事を提供されていた)。
- ・靴下の原料綿糸は16番手と20番手のものを使用し、楡次の紡績工場で生産され、P県城に移入されたもので、製品の靴下は1ダース(12足)ずつにまとめてP県城で販売した。

自転車修理

- ・1945年(18歳頃)から2年間ほどは、太原の自転車修理屋(「双輪車行」)で働いた。社長は河北省の人だった。おじのWDWの娘婿の友人(京鈴村出身の郝瑞虎)の紹介だった。郝瑞虎は双輪車行の社長の友人でもあった。

- ・双輪車行では調理人なども含めて十数人が働いていたが、このうち自転車の修理作業に従事したのは7人(2人の大師傅、1人の二把刀、4人の学徒。靴下作りの作業場と混同している可能性が高い)だった。その出身地は忻州・汾陽・平遥だった。大師傅には自転車の修理の仕方を教えてもらった。
- ・当時、本村には自転車を所有している家は1戸もなかったが、双輪車行の社長は個人用のおんぼろで安い自転車1台以外に公用のきちんとした自転車を3~4台所有していた。公用の自転車は、自分で自転車を修理する家に修理用の部品を届けるために使用された。なお、自転車を修理するために必要な部品はP県の「五金行」(北京から仕入れていた)で買っていた。
- ・タイヤのパンクの修理代は数角(1元以下)だったと思う。自分が代金を直接受け取ることはなかったので、はっきりとは覚えていない。

家譜

- ・今でも家譜が残っている。長女が中学校1年生の時(文革中)、焼却するために学校側から家譜を提出するように求められたが、家譜を入れていた箱だけを提出し、家譜は秘蔵していた。
- ・毎年、大晦日から正月5日まで家譜を箱から取り出してテーブルの上に広げて、供物とともに線香を立てて「叩頭」した。線香の火を途絶えさせないように、家族が交代で線香を立て「叩頭」を繰り返した。これは、文革中も途絶えることなく、現在でも行われている。なお、自ら進んで見せてあげようとは言わなかったため、こちらもあえて見せてほしいとは言わなかった。

結婚(文責：古泉達矢)

- ・D村の「保健站」で働いていたYXLの兄の妻の叔父(舅舅)の紹介で1955年に結婚した。その際、関帝廟の近くにあるW家の祠堂に当時存在していた郷政府へ結婚届を提出した。結婚するまで互いに顔を見たこともなかった。お金をかけない「革命」的な結婚式だった。

- ・長男の結婚の際には、400～600元程度の彩礼(結納金)を相手(花嫁)の実家に支払ったほか、家の庭に20数個のテーブルを並べて結婚式を開いた。その際、W姓の祠堂には行かなかったが、結婚式の一日前に祖先の墓前で報告した。

YXLの実家

- ・実家のあるQ村は、近くの山に炭鉱があり、山地に近かったものの、耕地は比較的多かったが、39年前に山のダムが決壊して水害に見舞われ、家屋を流された家族が新村を作って移住していった(実家は被害を受けなかったで、旧村にとどまった)。同村にはレンガ工場くらいしかなく、農業を生業の中心とする村だった。
- ・解放前、実家は100畝の土地を所有する「地主」(土地改革による階級区分)だったが、小作には出さず、人(長工)を雇って農業経営を行っていた。土地改革で実家は没収され、かつての「長工房一間」(長工が住んでいた1部屋)に住むようになった。
- ・2人の兄と妹1人の4人兄妹だったが、妹は18歳(高級小学)の時、文革に参加している途中で、病気で死去した。
- ・D村には実家のあるQ村出身の嫁が2人いるが、その2人とも20歳代で、ほとんど話をしたことがない。

II 霊石県溝峪灘村

山西大学中国社会史研究センターの郝平氏の手配によって、新しくできた溝峪灘村小学校を訪問して老人に話を聞くことができた。2つのグループに分かれてそれぞれ92歳と81歳の老人(李治中⁴⁾、本村書記の父親かどうかは不明)から話を聞いた。以下に、筆者の参加したグループが聞き取った内容をまとめることにする。

聞き取り日時：2012年8月20日(月) 10:00～11:15

聞き取り場所：靈石県溝峪灘村小学校3階

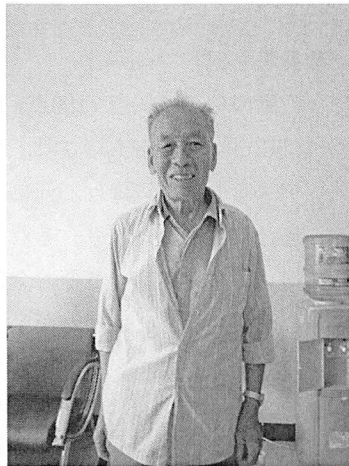
聞き取り対象者：李治中(1932年生まれ、申年、81歳、写真1を参照)

聞き手：弁納才一・林幸司・佐藤淳平・常利兵・李嘎・毛来靈
通訳：毛来靈

個人史

写真1. 李治中

- ・7～8歳頃から、私塾(先生は科学の秀才だった人)・小学校で4～5年間学んだ。私塾では三字経・百家姓・千字文・論語などを学んだ(ただ暗唱するだけだった)。
- ・日中戦争中は5か月くらい日本の学校で日本語を勉強したこともあったが、先生は日本人ではなく、天津人の2人の男性と1人の女性だった。
- ・日中戦争中、日本兵を見たことはあるが、近くに日本人の家族はいなかった。夜になると、本村にも八路軍や閻錫山軍のゲリラが出没し、その兵士を見たことがある。
- ・1950年(18歳)、第一小学を卒業した後、初等師範学校(介休・靈石・平遥3県の連合学校)に入学し、1952年冬まで学んだ。
- ・1953年から5年間、平遥県閻壁郷のマッチ工場の近くにあった小学校で教師をやった。その後、故郷の靈石第一小学に転勤し、5年生と6年生を担当した。



家族

- ・父(申年生まれ)は、もともとは河南省で商売をしていたが、祖父が失明して農作業ができなくなると、村に戻ってきて高等小学の教師となった

(片手間に農作業を行ったということか?)。

- ・母は砂腰村(本村の南方10里)の出身だった。
- ・家譜(「神職」)は文革の時に没収されて焼かれた。

私塾(文責：佐藤淳平)

- ・私塾では、科挙の秀才のおじいさんが漢字の読み方を教え、テキストを暗記するやり方で指導していた。解放以後まで私塾はあった。
- ・私塾の先生には食糧やお金を謝礼として支払っていた。

教員歴(文責：林幸司)

- ・教師の給与は90点・100点・110点に区分され、初任給は100点だった。毎月15日に給与が支給され、当時、100点教師の給与は23万人民元だった。デノミの実施以降は23元になった。給与は県教育局から数校をたばねる連合校長が受け取り、それを各教師に直接手渡すことになっていた。
- ・初めて銀行口座や郵便貯金口座を開設したのは最近のことで、以前は給与の振込などには使わなかった。

廟と祠堂

- ・かつて村には大きな廟があり、芝居の舞台も備わっていたが、戦時中に日本軍が破壊してしまった。
- ・李姓の祠堂は2つあったが、本村の中にはなく、ともにP県の城中(李治中氏の李家)と城西にあった。

解放前の経済状況

- ・5畝の「水地」(灌漑地)と3畝の旱地の土地を所有する「中農」(土地改革時の階級区分)だった。水地には冬小麦・玉蜀黍・豆類を栽培し(二毛作)、旱地には粟のみを栽培した(一期単作)。余剰農産物を外からやってきた商人に売って調味料などの生活必需品と交換した。
- ・初めは牛1頭を飼育していたが、後に驢馬1頭を飼育するようになった。驢馬は牛よりも安いからである。

相互扶助

- ・解放前、李姓の家同士では農作業をお互いに助け合っていた(換工・変工)。なお、李姓以外の家の人を雇う時は、少しのお金と食事を提供した。
- ・驢馬で石臼を牽かせて製粉をしていたが、本村は李姓が多い村なので、同じ李姓の中の貧農には無料で製粉をしてあげた。

解放前後の経済状況(文責：林幸司)

- ・平遙県城から天秤棒担ぎの行商人が塩などの日用品を持ってきて売っていた。
- ・本村には典当はなかった。よって、お金は親類や友達から借りた。
- ・1953年～58年頃、平遙県政府が発行した公債を買ったことがある。償還期間は2年だった。

Ⅲ 参観・訪問地

(1) 四社五村

2012年8月20日(月)午後、霍州市水利局長の張愛国氏の案内によって四社五村を訪問した。ただし、各地の道路が工事中であるために、四社五村の中心的な村である義旺村には入ることができなかった。今回の参加者の中には初回の者もいたので、かつて訪問した水源地や2か所のカトリック教会(天主教堂)も参観した。

なお、詳細は他の参観者の報告に譲りたい。(祁建民・田中比呂志の両氏によってそれぞれ報告書が提出される予定である⁷¹⁾)

(2) 興県一省西北部農村

訪問日時：2012年8月24日(金)

訪問場所：晋綏辺区革命記念館、黄河沿岸

参観者：内山雅生・田中比呂志・祁建民・弁納才一・首藤明和・山本真・福士由紀・古泉達矢・佐藤淳平・前野清太郎・郝平・毛来霊・李嘎・孫登洲

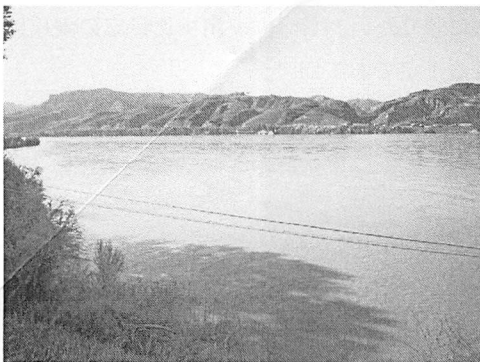
今回、山西省西北部農村を参観するに先立っては、諸事情を勘案して訪問予定地が二転三転したが、最終的には興県⁵⁾の農村を参観することになった。ただし、当初、興県に1泊する予定だったが、不測の事態が発生することを回避するために、日帰りとするようになった⁶⁾。

高速道路は太原から嵐県まで開通していたが、嵐県から興県までは一般道を走行せざるをえず、しかも、途中、舗装工事による片側通行のために30分ほど待たされることになった。興県に入ると、華北各省からやって来た運送用トラックが非常に多く、長蛇の列をなしていた。それは興県が華北各省を移動する要衝の地になっているからであるという。また、馬・牛・驢馬の放

写真2. 晋綏辺区革命紀念館



写真3. 興県側から見た黄河



牧が目立った。

興県城内のレストランで賀家会郷の李郷長に昼食をごちそうになった。さらに、土産に箱詰めの菓をいただいた。また、同郷長によれば、興県は国家級貧困県に認定されているほど、依然として経済発展が遅れているが、興県でも高速鉄道と高速道路の建設工事が始まっているという。

昼食後、同郷長の案内で晋級辺区革命紀念館(写真2を参照)と黄河(写真3を参照。対岸は陝西省)を参観し、吸水ポンプの設備があるのを確認した。

おわりに

今回の訪問調査では、当初は霍集市(四社五村)と興県にそれぞれ1泊する予定だったが、日中間の政治的軋轢によって農村部における宿泊を忌避せざるをえない状況に追い込まれてしまった。ただし、山西大学中国社会史研究センターの全面的な協力と配慮によって農村調査には全く支障を生じることはなく、極めて順調に聞き取り調査を実施することができた。

そして、今回の山西省農村調査の成果としては、これまでまだ誰も聞き取りをしていなかった老人(老百姓)に話を聞くことができたことと山西大学において道備村の档案資料をじっくりと見ることができたことによって、同村の全体像に幾分か接近することができたことである。

なお、8月22日、道備村の梁村長⁸⁾が昼食をごちそうしてくれた。その席にかつての平遥県南政郷長が出てきていた(すでにいくつかの宴席を掛けもちしていた)。現在は、平遥県中都郷長となっており、中都郷(来年8月に高速鉄道の駅が完成するという)の経済発展について説明していただき、農村を参観するようにお誘いをいただいた。今後、機会があれば是非参観したい。

注

- 1) 山西省農村におけるこれまでの調査内容をまとめたものとして、拙稿「華北農村訪問調査報告(1)－2007年12月、山西省太原市・霍州市農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第1号、2008年12月)・同「華北農村訪問調査報告(2)－2008年12月、山西省太原市・

霍州市・平遙県農村) (北陸史学会『北陸史学』第57号, 2010年7月)・同「華北農村訪問調査報告(3) - 2009年12月, 山西省P県の農村」(金沢大学環日本海域環境研究センター『日本海域研究』第42号, 2011年2月)・同「華北農村訪問調査報告(4) - 2010年8月, 山西省P県の農村」(『金沢大学経済論集』第31巻第2号, 2011年3月)・同「華北農村訪問調査報告(5) - 2010年12月, 山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第32巻第1号, 2011年12月)・同「華北農村訪問調査報告(6) - 2011年8月, 山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第32巻第2号, 2012年3月), 内山雅生・三谷孝・祁建民「中国内陸農村訪問調査報告(1)」(長崎県立大学国際情報学部『研究紀要』第11号, 2010年12月)・同「中国内陸農村訪問調査報告(2)」(長崎県立大学国際情報学部『研究紀要』第12号, 2011年12月), 内山雅生・祁建民「中国内陸農村訪問調査報告(3)」(長崎県立大学国際情報学部『研究紀要』第13号, 2012年12月), 田中比呂志「華北農村訪問調査報告(1) - 2009年12月, 山西省P県D村」(『東京学芸大学紀要(人文社会科学系II)』第62集, 2011年1月), 河野正・田中比呂志「華北農村訪問調査報告(2) - 2010年8月・12月, 山西省P県D村」(『東京学芸大学紀要(人文社会科学系II)』第63集, 2012年1月), 田中比呂志「華北農村訪問調査報告(3) - 2011年8月, 山西省P県D村」(『東京学芸大学紀要(人文社会科学系II)』第64集, 2013年1月刊行予定。)がある。また, 山西大学側の調査内容をまとめたものとしては, 行龍・郝平・常利兵・馬維強・李嘎(弁納才一訳)「山西省農村調査報告(1) - 2009年12月, P県の農村」(金沢大学環日本海域環境研究センター『日本海域研究』第42号, 2011年2月), 郝平・常利兵・馬維強・李嘎など(河野正・佐藤淳平訳, 田中比呂志監修)「山西省農村調査報告(2) - 2010年8月, P県の農村」(『東京学芸大学紀要(人文社会科学系II)』第63集, 2012年1月), 郝平・常利兵・馬維強・李嘎など(河野正・佐藤淳平訳, 田中比呂志監修)「山西省農村調査報告(3) - 2011年8月, P県の農村」(『東京学芸大学紀要(人文社会科学系II)』第64集, 2013年1月刊行予定)を参照されたい。

- 2) 前掲拙稿「華北農村訪問調査報告(6) - 2011年8月, 山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第32巻第2号, 2012年3月)を参照されたい。5男のWHZ氏については, 次回の調査で再訪して再確認する必要がある。
- 3) WCY氏とWSQ氏は体調が悪く, 聞き取りを行うことが不可能だったが, HH氏は親戚の結婚式に出席するために村外にいて面会することができなかったため, 次回の調査では是非とも聞き取りを行いたい。
- 4) 前掲拙稿「華北農村訪問調査報告(6) - 2011年8月, 山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第32巻第2号, 2012年3月)を見てみると, 李志中となっている。
- 5) 太原鐵路局総務処資業科「山西省静楽, 嵐県, 興県, 岢嵐, 五寨各県事情調査報告(蘭村支線背後地二関スル経済考察)」(1940年)を参照されたい。
- 6) 公安局が, 香港の活動家7人が尖閣諸島に上陸して逮捕された事件を受けて, 反日感情が高まっている可能性があることを憂慮していることに配慮したという。
- 7) 祁建民「中国内陸農村訪問調査報告(4)」(長崎県立大学国際情報学部『研究紀要』第14

号, 2013年12月刊行予定)。田中比呂志「華北農村訪問調査報告(4)―2012年8月、山西省P県D村」(『東京学芸大学紀要(人文社会科学系II)』第65集, 2014年1月刊行予定)。

- 8) 去年は, L村長が村書記を兼ねていたが, 新しい村書記が送り込まれて来たが, 村の実権は完全に村長が掌握しており, 書記は本村に居住していないという。なお, 聞き取り調査の最終日の晩に開催した慰労会にも書記は出席していなかった(そもそも, 村書記には声をかけていなかったようである)。